

施設花きの発育段階別温度の設定に関する研究

第6報 ポット・マムの生育・開花に及ぼす電照打ち切り後の夜温及び夜温転換の影響

小林泰生・松川時晴・*柏木征夫（福岡県園芸試験場・*和歌山県みかん園芸課）

KOBAYASHI, Y., T. MATSUKAWA and I. KASHIWAGI: Studies on Temperature at the Various Growing Stage of Greenhouse Floriculture
6. Night Temperature of Pot Chrysanthemum

第5報で‘バーミリオン’の摘心，電照打ち切り後の17℃期間と夜温転換の影響について検討し，発らい，開花，茎長，舌状花数などから，生育初期は17℃3週間がよく，その後は11℃まで夜温転換ができることを報告した。

本報告はさらに電照打ち切り後の夜温及び夜温転換の影響について，品種‘ホステス’他4品種を用い，1978年12月6日に15cm鉢に3株植えし，12月23日に摘心，電照打ち切り後，第1表に示す夜温設定で，1株3本仕立てとして生育，開花反応を検討した。

1. 結果及び考察

発らいは，各品種とも処理間の差が少なかったが，全期間17℃区が最も早く，他の処理区では同等かまたは1～2日間程度遅れた。しかし，開花までの反応は発らいと同傾向で，そろって早かった‘ホステス’，‘パラゴン’及び‘エロー・パラゴン’と，全期間17℃区では発らいは早くて開花が他の夜温区より遅れた‘バーミリオン’及び‘ブライト・ゴールデン・アン’の二つの品種群が認めら

れた。後者は花芽の分化が17℃で促進されるが，その後は14℃以下の低夜温の方がむしろ開花を促進する品種といえる。

草丈は開花の遅い‘バーミリオン’及び‘ブライト・ゴールデン・アン’の低夜温性の品種は17℃が2週間と少ない5区で長くなったが，その他の品種では処理による差は少なかった。葉数は品種による差が大きかったが，処理による差は少なかった。花首の長さ，切花重量及び小花数については処理による差が少なかった。

以上から，ポット・マムは摘心，電照打ち切り後，17℃で3週間栽培し，その後，14℃に夜温転換しても，各品種ともに全期間17℃にくらべて生育，開花のそろいに大差ないが，特に，‘バーミリオン’や‘ブライト・ゴールデン・アン’は花芽分化後に低温で栽培管理する方が生育が早く，しかも，開花のそろいがよい省エネルギー型の低夜温性品種といえる。

第1表 発らい，開花

区	夜温設定		品 種				
	17℃	14℃ 最終夜温	ホステス	パラゴン	エロー・パラゴン	バーミリオン	ブライト・ゴールデン・アン
	週	週	発 来 (月日)				
1	全期間17℃	1.20	1.21	1.22	1.22	1.30	1.22
2	3	4	1.21	1.22	1.23	1.31	1.24
3	5	4	1.20	1.22	1.22	1.30	1.23
4	3	4	1.21	1.23	1.23	1.31	1.23
5	2	4	1.20	1.22	1.22	2.1	1.23
			開 花 (月日)				
1	全期間17℃	2.28	3.1	3.5	3.13	3.16	
2	3	4	2.27	3.4	3.5	3.11	3.14
3	3	4	2.28	3.2	3.4	3.11	3.12
4	3	4	2.28	3.4	3.6	3.13	3.14
5	2	4	2.27	3.2	3.3	3.11	3.13

第2表 開花時の草丈，葉数

区	品 種				
	ホステス	パラゴン	エロー・パラゴン	バーミリオン	ブライト・ゴールデン・アン
	草 丈 (cm)				
1	19.7	18.3	24.0	25.0	32.5
2	21.3	22.1	23.5	23.5	29.2
3	20.8	19.2	23.0	26.4	32.7
4	21.1	21.0	23.3	24.2	30.3
5	21.1	21.1	22.0	26.5	34.9
	葉 数 (枚)				
1	11.0	12.4	14.1	16.0	10.3
2	10.8	13.0	13.9	16.0	10.3
3	10.4	12.4	13.8	15.2	9.4
4	9.3	12.9	14.0	15.3	9.7
5	10.2	13.0	13.5	15.8	9.9